友人関係における傷つきの回避とソーシャルスキルの関連

永井 暁行

(中央大学大学院文学研究科)

キーワード：友人関係 ソーシャルスキル 青年

The effect of social skill on avoidance of feeling hurt in friendship.

Akiyuki NAGAI

(Graduate School of letters, Chuo Univ.)

Key Words: friendship, social skill, adolescent

目 的

近年、青年の友人関係の希薄化が指摘されるようになった。岡田 (2007) は従来のように親密で内面を開示するような関係を「内面的友人関係」とし、これに対して友人から低い評価を受けないように警戒し、あるいは互いに傷つけ合わないような関係を「現代的友人関係」とした。現代的友人関係の一つである傷つけ合わないように気を遣う群は自分も他人も傷つけないように警戒することで、結果的に自尊感情の低下を防いでいることが指摘されている (岡田, 2007)。岡田 (2012) によっても、この自他を傷つけないように気を遣うという性質が自尊感情の維持に繋がっている側面が示されている。

お互いに傷つくことを回避する傾向は現代の青年にとって友人関係を円滑にするための一つの方略であると推測されるが、このような方略を用いるためには相手の反応を読みとり、自分の感情などを伝えるといった技術が必要になる。相川・藤田 (2005) はソーシャルスキルの定義の一つに相手の反応の解釈や、対人目標の決定、感情の統制などのような「認知過程」と、対人反応の実行という「行動過程」の両方を含むものを指摘している。傷つけられることや傷つくことを回避するためにはソーシャルスキルが必要である可能性がある。

そこで本研究ではソーシャルスキルが友人関係における傷つくということを回避する傾向にどの程度影響を与えているかを検討することを目的とする。

方 法

調査は 2015 年 4 月に行った。調査協力者は私立大学生 73 名 (男性 12 名、女性 61 名) であり、平均年齢は 19.21 歳 ($SD=1.04$) であった。本研究における調査内容は 1. フェイスシート、2. 傷つけ合い回避尺度 (岡田, 2012)、3. 成人用ソーシャルスキル自己評定尺度 (相川・藤田, 2005) からなる。

- フェイスシートでは、学年、年齢、性別を尋ねた。
- 傷つけ合い回避尺度 (岡田, 2012) では、友人との付き合い方に関して 5 件法によって回答を求めた。項目は全部で 33 項目であり、下位尺度には「傷つけられ回避」、「距離確保」、「礼儀」、「傷つけ回避」から構成された。
- 成人用ソーシャルスキル自己評定尺度 (相川・藤田, 2005) では、ソーシャルスキルを包括的に測定する尺度であり、4 件法によって回答を求めた。項目は計 35 項目であり、下位尺度には「関係開始」、「解説」、「主張性」、「感情統制」、「関係維持」、「記号化」から構成された。

結 果

ソーシャルスキルと傷つけ合い回避尺度の関連を調べるためにそれぞれの各下位尺度の平均得点を用いて共分散構造分析を行った (Figure 1)。その結果、ソーシャルスキルの下位尺度の内、「傷つけられ回避」を予測する変数はなく、「傷つけ回避」を予測する変数として「関係維持 ($\beta=.20, p<.05$)」が得られた。また、「距離確保」に対してはソーシャルスキルの「関係維持 ($\beta=-.22, p<.05$)」と「記号化 ($\beta=-.25, p<.01$)」

が影響した。同じく「礼儀」に対しては「関係維持 ($\beta=.26, p<.01$)」が影響した。傷つけられ回避の下位尺度間の関係については「傷つけられ回避」が「距離確保 ($\beta=.32, p<.01$)」および「傷つけ回避 ($\beta=.64, p<.001$)」に影響し、「傷つけ回避」が「礼儀 ($\beta=-.22, p<.05$)」および「距離確保 ($\beta=-.22, p<.05$)」に影響した。最終的な適合度は $\chi^2(29)=41.07 (p=.07)$, GFI=.91, CFI=.94, RMSEA=.08, AIC=93.07 であった。

Figure 1. ソーシャルスキルと傷つけ合い回避の関連

考 察

本研究ではソーシャルスキルの下位尺度が傷つけ合いを回避する傾向にどのように影響をするかを検討した。その結果、すでに構築された関係を維持するための関係維持スキル (相川・藤田, 2005) が高いことは友人を傷つけないように行動を抑制する傾向や、相手に対する共感的配慮をする傾向を高めることが示唆された。

また、関係を維持するスキルや相手に自分の感情や意思を伝えるスキルが高いことは友人との距離を確保しようとする態度を抑制するという結果が得られた。対照的に傷つけられ回避と傷つけ回避は距離確保を正に予測した。この結果から傷つけること、傷つけられることを回避するためには距離の確保に努めなければならないが、適切なソーシャルスキルを身につけることによって友人との距離を取らなければならないという不安を感じることなく友人との付き合いができるようになると推測される。そのためのスキルとして感情や意思の疎通および関係を維持していくスキルが重要な要因となる。

引用文献

- 相川充・藤田正美 (2005). 成人用ソーシャルスキル自己評定尺度の構成. 東京学芸大学紀要第 1 部門教育科学, **56**, 87-93.
- 岡田 努 (2007). 大学生における友人関係の類型と、適応及び自己の諸側面の発達に関連について. パーソナリティ研究, **15**, 135-148.
- 岡田 努 (2012). 現代青年の友人関係に関する新たな尺度の作成— 傷つけ合うことを回避する傾向を中心として —. 金沢大学人間科学研究紀要, **4**, 19-34.